

～さようなら原発・核燃「3.11」弘前集会～



[基調講演]

福島第一原発事故から学ぶこと ～初期の甲状腺被ばくと国連科学委員会報告～

講師 榊原崇仁氏（東京新聞）

1976年 愛知県生まれ。京都大学大学院修了後、中日新聞社入社、2013年 東京本社（東京新聞）特別報道部勤務、2016年 日隅一雄・情報流通促進賞奨励賞受賞、2019年 福島県の調査報道「背信の果て」担当、2021年 『福島が沈黙した日』（集英社）出版。

福島第一原発事故の発生から11年が経過しようとしています。今でも被災地では、多くの住民が恒常的な低線量被ばくの下で、健康上のリスクや不安を抱えながら暮らしています。今回の弘前集会では、榊原記者が徹底した取材と綿密な調査によって解明した低線量被ばくの実態を報告します。福島県の復興と原発ゼロの実現のために、みなさまのご参加をお待ちしています。

日時 2022年3月6日（日）14時00分～16時30分

会場 Zoomによるオンライン開催となりました。

参加希望される方は takaf@hirosaki-u.ac.jp（宮永）へお申込みください。

参加費 無料

主催 核燃・だまっちゃおられん津軽の会 HPはこちらから →

お問い合わせ 核燃・だまっちゃおられん津軽の会事務局

（永瀬範明 TEL 0172-39-3535/E-mail: snaga@hirosaki-u.ac.jp）

